

キーワード

学習意欲の向上

標 題

かかわりやつながりを大切にした学力の向上

①学校の概要（平成25年7月1日現在）

・児童生徒数 99名 ・学級数 8学級 ・教職員数 17名

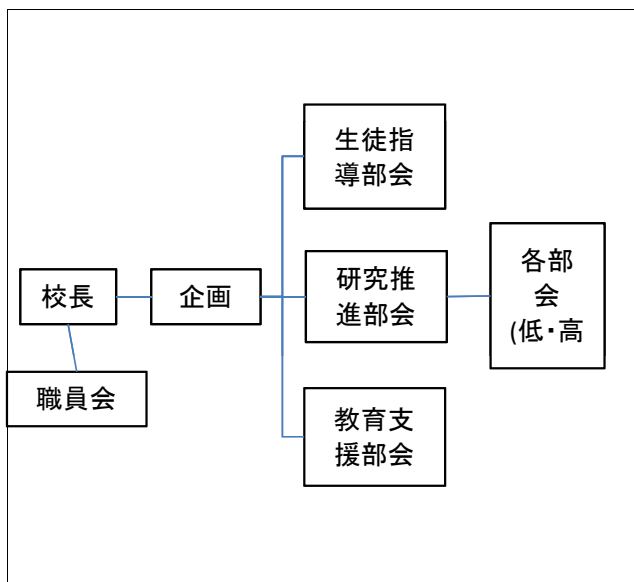
②取組を始めた経緯

本校は100名弱の小規模校である。素直な子どもたちで何事にも真面目に取り組んでいる。一方1年生から単級のみであり、友達関係も固定化されがちでいったんうまくいなくなると、修復が難しい面もある。友達関係を改善し居心地のよい学級、学校を目指したいと考えた。

また、学力の向上を考える時、学力を支えていく意欲をしっかりと支え伸ばしていくことが大切である。その意欲を高めていくために大切なことが、先生や親等大人の関わりであり、友だち同士のつながりであると考えた。

このような考えに立ち、先生や親などによる自己肯定感を高める関わりや、友だち同士のつながりを基盤においた授業改善を進める中、学習意欲の向上及び学力づくりに取り組むことにした。

③取組の実施体制



④学力向上に向けた具体的な取組

- 落ち着いた学習集団づくりに向けて
 - ・QU検査の活用（H22年度から全学年で）
 - ・規範意識の向上
- 協同学習
 - ・平成24・25年度津山市小中学校研究支援事業の指定
- 基礎学力づくり
 - ・どんどんチャレンジ（算数の基礎問題）
 - ・放課後学習（5・6年生：どんどんチャレンジを中心に）
 - ・読書の取組 本の読み聞かせ 朝読書
- 保護者や地域との連携
 - ・学習習慣づくり テレビやゲーム時間の改善 毎日の音読 自主学习
 - ・音読暗唱大会（年6回）
 - ・夏休み地域支援ぐんぐん教室

⑤取組の成果と課題

- どんどんチャレンジ等の取組により、算数の基礎学力が定着してきている。
- きまりに対する自己肯定感の高まりとともに、以前よりきまりを守ろうとする様子がうかがえる。
- 地域との連携の中、生活面や学習面で児童のがんばる姿が増してきている。
- 授業の中にグループ学習を取り入れる中で、子ども同士のかかわりや学び合いが増えてきた。
- 一部にはまだ学習に意欲がもてず、授業に集中できない児童が見られる。
- 基礎学力はある程度定着してきているが、活用力は基礎学力に比べ弱い傾向がある。

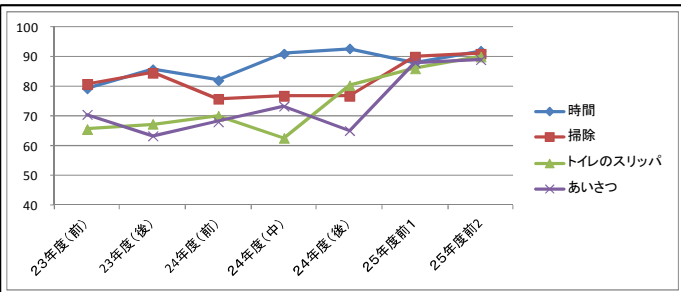
⑥取組の継続・発展の要因

- 授業改善に向けて、講師に継続して指導していただいていること。
- 継続的にQ-U検査や児童アンケートを実施し、グラフや表を使って（見える化によって）様子を把握していること
- 今年度より「学校支援地域本部事業」に参加し、地域との連携が進んだこと。
- 長年にわたって基礎学力の向上に取り組んできていること。

⑦管理職・中核教員等のアクション

- 企画会、研究推進部会を月1回定期的に開催し、児童の様子や課題について考えている。
- 自己評価を定期的に行い（今年度5回の予定）、取組の修正や新たな改善策を考えるようにしている。
- 毎日授業観察を行い、必要に応じて助言や示範授業を行っている。
- 職員会議や研修で、授業で大切にしたいこと等を提起している。

⑧資料・写真等



「きまりは守れていますか」
重点項目

- ・時間を守る
- ・そうじを本気でする。
- ・トイレのスリッパそろえ

